

日本労働社会学会『通信』
vol. X, no.5(2006年6月)

日本労働社会学会事務局 (第18期)

〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1

都留文科大学社会学科 田中夏子 (たなかなつこ)

tel.0554-43-4341 fax.0554-43-4347

e-mail: natsu@tsuru.ac.jp

学会HP:<http://www.jals.jp>

◆郵便振り込み口座番号

00150-1-85076

「日本労働社会学会 村尾祐美子」

◆銀行振り込み口座番号

東京三菱銀行 大塚支店

普通 口座番号 1519051

「日本労働社会学会 会計 村尾祐美子」

◆年会費 学生・院生会員→6000円 / 一般会員→10000円

目次

- I. 関西労働社会学研究会のご案内
 - II. 東京での研究例会のご案内
-

I. 関西労働社会学研究会 (2006年春・通算第9回) のご案内

2006年度・春の関西労働社会学研究会を下記のように開催いたしますので、会員、非会員にかかわらずご参加ください。参加費は無料です。

1. 報告者と報告主題、報告要旨

(1) 日系ブラジル人労働者の就労経路と生活スタイル ——滋賀県長浜市の事例

佛教大学：近藤敏夫 佛教大学：長光太志

長浜市が近畿圏第一の日系ブラジル人集住地域となってきた理由と特質を明らかにし、また日系ブラジル人が、(1)短期雇用の出稼ぎ労働に従事し、その後すぐに長浜から転出していく層と、(2)長浜に長期間滞在もしくは定住しつつある層に分化していることを示したい。

長浜市では、日系ブラジル人とその家族が、大手派遣会社を通じてブラジルから大量に流入し、また、その多くが短期間に他の地域へ転出している。日系ブラジル人たちが、性別や居住形態の違いを軸に、長浜での滞在期間や生活スタイルを変えていると考えられる。本報告では、日系ブラジル人の一定数が長浜に定住する可能性があるかどうかも含めて検討したい。

(2) 「飯場労働者の労働への意味づけ: 建設産業における構造転換の中の下層労働」

大阪市立大学大学院 渡辺拓也

・報告のねらい

私は、建設労働者を派遣する経営体であり、労働者の宿舎でもある飯場という施設について研究してきました。建設産業の構造転換の中で、建設産業における下層労働の位置づけが変化し、野宿者問題や寄せ場研究といった都市下層研究の中で飯場が大きく取り扱われるようになりました。これまで私は、飯場での延べ99日の参与観察によって得られたデータを元に、飯場労働者の労働への意味づけについて考察してきました。

今回の報告では、労働者の労働への意味づけや、産業構造の中へそれを位置づけていくやり方などについて、ご意見をいただければと考えています。

2. 日時：2006年6月24日（土） 午後1時から6時

3. 場所：立命館大学衣笠キャンパス・修学館・1階・第2研究会室

（立命では土曜日はセキュリティーのために建物を施錠します。当日は12時45分から施錠を解きますが、必要な方は辻の携帯電話 090-1148-1163に連絡くださいと即刻、対応いたします）。

なお、研究会終了後には近くの居酒屋で恒例の懇親会を開きますので、この席にもご参加ください。

関西地区でも労働社会学の研究会を開いていこうということで始まったこの研究会も5年目を迎えました。残念なことにこれまで世話人をお引き受けいただいていた同志社大学の鈴木良始先生は校務多忙のため、昨年秋をもって退任なさいました。これまでの多大なご尽力に感謝いたします。また後任として佛教大学の高橋伸一先生に世話人をお引き受けいただきました。

この通信に関するご質問等は下記の世話人のメールにお願いいたします。

立命館大学産業社会学部 辻 勝次 Ktt01750@ss.ritsumei.ac.jp

佛教大学社会学部 高橋伸一 takashin@bukkyo-u.ac.jp

II. 東京での研究例会日程

1. 報告者および報告タイトル

（1）報告者 吉川光洋（東京農工大学大学院 連合農学研究科（院生D3）、特定非営利活動法人 日本グリーンツーリズム・ネットワークセンター研究員）

タイトル：「セカンドライフの生活拠点としての農村地域への移住と就業時の葛藤に関する研究」

（2）報告者 小寺京子（中央大学文学部兼任講師）

タイトル；「性別職務分離の実態とジェンダーの再編 -電機産業における国際比較調査より」

2. 日時 7月1日 土曜 15:00-17:30

3. 場所 明治大学駿河台キャンパス12号館2101教室 場所の詳細は以下をご覧ください。 <http://www.meiji.ac.jp/campus/suruga.html>